

# RSウイルス感染症予防接種について

## ◆RSウイルス感染症とは

- RSウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスです。1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。
- 感染すると2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。
- 初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で、数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。小さなお子さん（新生児や乳幼児）が感染すると症状が重くなる可能性があり、入院を必要とされる場合があります。
- RSウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。
- 接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。
- 治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理等を行います。

## ◆RSウイルスワクチンの母子免疫ワクチンとは

- 大人は様々なウイルスや細菌に感染した経験があり、その経験を体の免疫機能が記憶していますが、生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟です。乳児は、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされ、様々な感染症にかかりやすい状態にあります。
- 母子免疫ワクチンは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。
- 妊娠中の方がRSウイルスワクチンを接種すると、母体のRSウイルスに対する抗体の量が増えます。妊娠中にお母さんから赤ちゃんへ胎盤を通じて抗体の一部が移行（母子免疫）され、生後6か月ごろまでの間、免疫が未発達な赤ちゃんをRSウイルス感染症から守るといわれています。

母子免疫 ワクチンの 効果	医療受診を必要とした疾病	生後90日時点	生後180日時点
	下気道感染症	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
	重症下気道感染症	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

- 接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していません。母体内で作られた抗体が胎児に移行することにより得られるワクチンであることから、接種後14日以内に出生した乳児においては、胎児への抗体の移行が十分でない可能性があります。

## ◆RSウイルスワクチンの副反応について

- ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。
- 接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

〈重大な副反応〉 ショック、アナフィラキシー※<sup>1</sup>（いずれも頻度不明）

〈その他の副反応〉

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛（40.6%）、頭痛（31.0%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	紅斑（7.2%）、腫脹（6.2%）
頻度不明	発疹、蕁麻疹

※<sup>1</sup>アナフィラキシー…接種後30分以内にあらわれる呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応、けいれんなどの副作用

## 接種時の注意点

### ☑ 次の方は接種を受けないでください。

- ・ 明らかに発熱をしている方
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ・ このワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方
- ・ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がよいといわれた方

### ☑ 次の方は接種に注意が必要です(接種前に医師や看護師に相談してください)。

- ・ 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- ・ 血小板減少症や凝固障害がある方、抗凝固療法を受けている方
- ・ 心臓血管系、腎臓、肝臓、血液等の基礎疾患がある方
- ・ 予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- ・ けいれんを起こしたことがある方
- ・ 免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・ このワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれのある方

## ◆接種後の注意点

- 接種後30分程度は安静にしてください。
- 注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- 当日の激しい運動は控えるようにしてください。
- 体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

## ◆他のワクチンとの同時接種・接種間隔

- 医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。
- ただし、海外の知見で、百日せき菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日せき菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師と相談してください。

## ◆予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残したりするなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審査し、予防接種によるものと認定された場合に、補償を受けることができます。